

「消防用保形ホース」を安全にお使い頂くために

設置または交換の工事を行う前に必ず本書をお読みください。(本書の内容は必ず防火管理者へお伝えください)

本書において△警告のついた文章は重大な人身事故を生ずる危険が存在する警告であり、△注意は重大には至らないが同様の危険が存在する注意事項です。消防用保形ホースを安全に使用して頂くために必ずお守りください。

1. 開梱上の注意

刃物の使用禁止△警告

ダンボールのテープは刃物を使用せず、手で外してください。消防用保形ホースを結束している紐等も刃物を使用せず、必ず手で外してください。刃物を使用した場合、誤って消防用保形ホースを傷つけ、ホース破断による重大な人身事故が生ずる恐れがあります。

2. 設置・交換工事の注意

(1) 工事者の制限△警告

消火設備の設置工事は消防設備士、消防用保形ホース交換工事は消防設備点検資格者または防火管理者等、消防設備の知識を有する防火対象物の関係者が実施してください。消防用保形ホースの接続方法を誤ると重大な人身事故が生ずる恐れがあります。

(2) 性能の限界△警告

- a. 消防用保形ホースに表示された使用圧以内で使用してください。過大な圧力は消防用保形ホースの破断や損傷につながり人身事故が生ずる恐れがあります。
- b. 消防用保形ホースは、ビルの中で発生した火災をいち早く消火することを目的にビニルタイル等の床上で操作し易い仕様となっておりますので、コンクリートやアスファルト上での操法訓練では消防用保形ホースの穴あきに注意が必要です。

3. 使用上の注意

(1) 展張時の注意△注意

消火栓の近くや廊下の角での急角度の曲げを避けて、消防用保形ホースを展張してください。

(2) 放水時の注意△警告

ノズルのバルブを少しだけ開けてホース内の空気を抜きつつ、少量の水が出るようになってからバルブをゆっくり開けてください。放水中にノズルは絶対に手放さないでください。水流の反動力によりノズルを保持できそうもない場合には、放水量を下げ、反動力を軽減してください。放水中にノズルを手放すと、水流によってノズルが暴れ重大な人身事故が生ずる恐れがあります。また、放水中のノズル並びに吐水口の開閉操作はゆっくり行ってください。急激な開閉操作を行うと送水中の圧力の数倍の衝撃圧力が消防用保形ホース内に発生し、消防用保形ホースの飛び跳ねや金具の吹き飛びによる重大な人身事故が生ずる恐れがあります。

(3) 撤収時の注意△注意

消防用保形ホースをまっすぐにする際は、消防用保形ホースを長手方向にひっぱり、消防用保形ホースが折れないようにして巻き上げ、撤収してください。

(4) 安全の確保△警告

万一の破断事故に備え、放水時には直接放水活動に携わっている方以外は、消防用保形ホースから離れるようにしてください。消防用保形ホースが破断すると重大な人身事故が生ずる恐れがあります。

4. 保守上の注意

(1) 点検の実施△警告

使用後は必ず外観点検を行い、ジャケットの糸切れが生じた場合には、その消防用保形ホースを使用せず、すみやかに新しい消防用保形ホースに交換してください。消防用保形ホースは使用しなくても経年劣化を起しますので定期的な点検が必要です。屋内消火栓設備の技術基準と点検要領に則り、消防用保形ホースの「外形(外観)点検」を実施してください。

消防用保形ホースの外傷や金具装着部の損傷は消防用保形ホースの破断や金具の吹き飛び等による重大な人身事故が生ずる恐れがあります。

(2) 保管方法△注意

使用後はホース内部に水を残さないようにしてから、すみやかに消火栓ボックスへ収納してください。

一般社団法人日本消防ホース工業会

ホームページ <http://www.jfh.jp/>

TEL&FAX 03-3245-1777

東京都中央区日本橋二丁目1番10号 柳屋ビル 帝国繊維(株)内